

JACET-Kansai Newsletter

No.27 2005年 2月3日発行

支部長: 岡田 伸夫

JACET-Kansai 事務局: 〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学

相川真佐夫研究室内 Tel: 075-322-6079 Fax: 075-322-6245 E-mail: aikawa@nnc.or.jp

URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

振込口座: 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部

2つの国際調査の結果を見て

支部長 岡田伸夫

昨年12月に相次いで公表された2つの国際調査で、日本の子どもの学力低下が浮き彫りになりました。7日に公表された経済協力開発機構(OECD)2003年学習到達度調査(PISA)(15歳児対象)では、数学的リテラシーが前回(2000年)の1位から6位に、読解力が前回の8位からOECD平均レベルの14位に下がり、また、15日に発表された国際教育到達度評価学会(IEA)の国際数学・理科教育調査(TIMSS)では、小4理科が2位から3位に下がり、中2数学が579点(5位)から570点(同)へと統計的な誤差の範囲を超えて下がりました。

学力低下はもちろん危惧すべきことですが、もう一つ危惧すべきことがあります。PISAと同時に実施されたアンケートで、数学について、「授業が楽しみか」「内容に興味があるか」など、関心・興味・意欲を聞いたすべての質問項目で、日本の生徒の肯定的な答はOECDの平均を下回りました。さらに、授業以外の勉強時間は週平均6.5時間で、OECD平均の8.9時間を大きく下回っています。

TIMSSと同時に実施された意識調査でも、「勉強が楽しい」と答えた子どもの割合は、数学と理科のどちらの教科・学年でも国際平均を大きく下回り、最下位レベルでした。1日の過ごし方で「宿題をする」は中2で1時間と最下位、小4は0.9時間で、下から4番目です。また、「テレビやビデオを見る」は中2で2.7時間と最高でした。子どもの学習意欲や家庭学習の時間が最下位レベルにかかわらず、この程度の学力低下ですんでいるのはなぜかと問うべきなのかもしれません。

PISAの結果でもう一つ気がかりなことがあります。志水宏吉・大阪大教授(教育社会学)は、今年1月に開かれた日教組の教研集会で、今回のPISAの結果について「日本は学力のばらつきが少ないことが誇りだったが、今回、それを裏切る結果となった。」と述べておられます(2005年1月9日朝日新聞)。成績上位層と下位層の二極化は家庭の階層の二極化の反映なのでしょう。

ところで、PISAで全4分野のうち読解力と科学的リテラシーが1位、数学的リテラシーが2位、問題解決能力が3位だったフィンランドの小・中学校ではどのような教育が行われている

のでしょうか。2004年12月19日付けの朝日新聞にヘルシンキ市のクルーヌハカ中学校のことがレポートされています。ヤリ・アルビオ先生の2年生の数学の授業では「わからないことがあったら、まずは生徒同士が教えることになっている」のですが、それはフィンランドでは標準的な考え方なのだそうです。カッリ・コムシ君は、インタビューの中で「競争ではなく、自分がやりたいくて、できるようになりたいから勉強している。数学が苦手な友達を助けてあげるのはいいこと」と話しています。できない友達を教えればより理解を深められるという側面を重視するのでしょうか。一方で、担当教師や子ども自身の判断で、子どもが別室へ移り、自分の理解度にふさわしい指導を受けることも一般的なのだそうです。

トゥーラ・ハータイン教育相はインタビューの中で次のように話しています。

フィンランドの教育の強みは

「平等が原則だが、子どもがみな一様に扱われることはない。能力が劣ったり、社会環境が恵まれない子には支援がある。教師は修士課程修了が原則。さらに国の予算で継続教育をし、教師の質の向上に努めている。」

課題は

「教師に大きな裁量があるので、能力の高い人材が必要だ。...現状では優秀な学生が大学の教育学部に来るが、今後は他分野に進む若者が増えるはず。教職をいかに魅力的な仕事にするかが重要だ。給与水準の引き上げ。非常勤講師を減らして終身雇用を増やす。教師の継続的な教育機会を設ける。...」

日本の教育に対する有益な示唆が含まれていると思うのは私だけではないでしょう。

関西支部ホームページ移転についてのお知らせ

このたび、関西支部では、支部ホームページに独自ドメインを取得して運用することとなりました。新しいURLは、<http://www.jacet-kansai.org> となり、覚えやすくなりました。支部ホームページはすでに新しいURLで稼働しておりますので、今後はこちらにアクセスして頂きますようお願いいたします。なお、旧URLのページからも新しいURLへリンクを張っております。(担当幹事 杉森 直樹)

2005年度春季大会応募受付中

2005年度 JACET 関西支部春季大会における研究発表他を事務局で受け付けています。締め切りは2月22日(必着)です。詳細は、Newsletter No. 26 をご覧下さい。また、応募用紙は <http://www.jacet-kansai.org/> の左フレーム内「支部大会発表応募」にありますので、ダウンロードしてご利用ください。

関西英語教育学会主催・

第8回卒論・修論研究発表セミナー共催

第8回セミナーは、

平成17(2005)年2月12日(土) 9:00~17:30(予定)

同志社大学今出川キャンパスにおいて開催いたします。

瀬川 俊一(KELES関西英語教育学会・会長)

第8回卒論・修論研究発表セミナーのホームページ

[<http://www.eonet.ne.jp/~arumeunet/seminar2005.html>]

関西英語教育学会(KELES)のホームページ

[<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>]

2004年度第3回談話会

2004年度第3回談話会が3月6日(日)、キャンパスプラザ京都で開催されます。概要と講師プロフィール等、詳細は同封の案内状をご覧ください。

支部研究会の活動についてのお知らせ

現在、関西支部の各研究会は第8次研究会として活動しておりますが、今年度末で2年間の活動期間が終了します。引き続き、来年度から2年間の予定で第9次研究会が発足しますが、第8次研究会のうち、第9次研究会でも引き続き活動を続ける予定の研究会は以下の通りです。

教材開発研究会

談話分析研究会

海外の外国語教育研究会

学習英文法研究会

リスニング研究会

文学教育研究会

リーディング研究会

ライティング指導研究会

口語英語研究会

ESP 研究会

英語力指標研究会

第9次研究会のリスト(確定版)は、2005年4月頃に発行予定の Newsletter に掲載する予定です。なお、第8次からの継続ではなく、全く新規で第9次から新しく研究会を立ち上げられる予定の方は、支部事務局までご連絡下さい。

(担当幹事 杉森 直樹)

研究会からのお知らせ

学習英文法研究会

3月例会

日時: 3月12日(土) 14:00 - 17:00

場所: キャンパスプラザ京都5F 第4演習室

内容: 発表1. 「Functor 有界性(Boundedness)との関係について」中西充一(神戸市外国語大学)

発表2. 「語法二題 文脈と韻律素の大切さ」

好田 實(元大阪外国語大学)

連絡先: 神崎高明 E-mail: tkanzaki@kwansei.ac.jp

他支部の紀要情報

JACET中部支部と九州・沖縄支部より紀要が届きました。

内容をご紹介します。

JACET中部支部紀要 / 第2号

【第43回JACET全国大会報告】

大会概要 倉橋洋子

大会実行委員会報告 吉川寛

【研究論文】

“Positive Politeness Strategies in Japanese High School English Textbooks: How much attention is given to the interpersonal aspect of language?” 村田泰美

「フィリピン英語教育: 英語教員とその授業」 河原俊昭

「英字新聞・雑誌の見出し表現と英米文化理解」

倉橋洋子・後藤いく子

【書評】

福田陸太郎(監修)東京成徳英語研究会(編著)2004

『OEDの日本語 378』論創社 大森裕實

JACET九州・沖縄支部紀要 / 第9号

“Investigating the Potential of the 2000 Word Level Test as a Placement Test for Elementary-Level Japanese EFL Learners” Mitsuru Orita

“Finding a Balance between Accuracy and Communicative Competence in Student L2 Production: The Role of Teacher Questions” William Collins & Shinji Ogasawara

“Analysis of Fm Theta Rhythm in L2 English Rhythm Acquisition” Hideko Nakano, Natsuko Yoshida & Kiyohisa Natsume

「小学校の1クラスにおける授業中のやりとりのパターンとコミュニケーション教育に関するパイロット調査」

森礼子&山鹿真人